

## 2) 日本の列車トイレの歴史 ( 8

### ① 鉄道の開設時

1872年(明治5年)新橋 横浜の鉄道が開設いたしました。車両にはまだトイレは付いていませんでした。

1873年(明治6年4月)荒物渡世増沢政吉氏が横浜駅到着前にトイレをもようし、列車の窓から小用をしたのを鉄道員にとがめられ東京裁判所で当時のお金で10円の罰金を科せられました。

1881年(明治14年11月19日)の東京日日新聞に「横浜駅から乗車したお客さんが窓から尻を突き出しプーと一発かましたため罰金5円を支払う」との記事が載っています。

1889年(明治22年4月27日)宮内省の肥田浜五郎氏が藤沢駅でトイレ行ったところ列車が発車してしまい、あわてて列車に飛び乗らんとしたが乗りそこない転落死亡する事故がありました。肥田氏は当時政府の高官であったため、新聞社がこぞって列車トイレの必要性を書き立てました。



写真 6a. 身延線沼久保駅 西富士宮を行く  
か  
急行富士川 71.9.8  
し



写真 6b. 同じく旧型電車  
トイレは付いています 71.9.8

しかし日本でのトイレ付き車両は英国から輸入した車両が初めてのようです。また明治13年製の北海道幌内鉄道の開拓使用客車にはトイレ付き車両があったようです。

1920 - 1930年(大正の末から昭和の初期にかけて)電車にもトイレ付きがあらわれました。難波 和歌山市、新宿 小田原間等の比較的長距離電車にトイレが付きました。特に南海鉄道の豪華列車にはトイレが組み込まれました。

1924年(大正13年)製の参宮急行(現近鉄)、小田原急行、東武鉄道、国鉄横須賀線 富士身延鉄道等の車両にトイレが付きました。

当時はいずれも汚物は列車からは垂れ流しでした。